4 公共交通網形成に向けた基本的な方針

4-1 公共交通に求められる機能と公共交通の現状

２章および３章に示した和歌山市の現状、まちづくりの方向性を踏まえた、和歌山市における公共交通に求められる機能及び公共交通の現状の整理を４－１－１以降に示す。

4-1-1 和歌山市における公共交通に求められる機能

地域の現状やまちづくりの方向性を踏まえ、和歌山市において公共交通に求められる機能の整理を行う。

（１）地域の現状

・人口減少や高齢化に加え、居住地や店舗の郊外化が進み、中心市街地が衰退している。
・市民は、まちへの愛着は持っているが、現状では多くの人が、「活気がない」、「不便」と感じている。

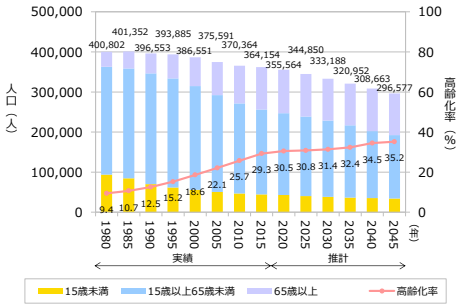
＜人口、高齢化＞

・人口は約 36 万人まで減少、高齢化率は約 3 割。
・県内からの転入は多いが、大阪等への転出が超過。
・市内では、居住地等の郊外化が進展。

＜施設立地＞

・事業所、従業員は中心部に集中。
・大学、専修学校等は主に中心部に立地。
・医療機関の多くは中心部や南部に立地。

▼年齢別人口の推移



＜中心市街地＞

・店舗の郊外化が進み、商店街等の中心部の商業機能の衰退が進展。
・これにより、中心部の空き物件や駐車場等が増加し、市街地としての魅力低下（スポンジ化）。

▼中心部の遊休不動産（2014 年）

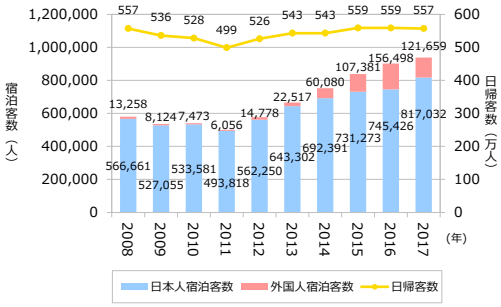
＜まちに対する意識＞

・和歌山市に愛着はあるが、現状に「魅力的」、「楽しい」と感じている市民は少ない。
・また、半数以上が公共交通にも関連する、「活気がない」、「不便」等のネガティブな印象を持つ。

＜観光＞

・市内には日本遺産の和歌の浦をはじめ、和歌山城、加太、和歌山マリーナシティ等が存在。
・広域的な取組として、紀の川流域の活性化や、サイクリングロードの整備も実施されている。
・しかし、周辺観光地に比べて集客力が低く、資源が広く分散し回遊もしづらい状況。
・宿泊客数は 2012 年以降、インバウンド宿泊客の増加や積極的なプロモーション活動により、日本人宿泊客も増加している。

▼和歌山市の観光客数の推移



（２）まちづくりの方向性

・安心して住み続けられ魅力あるまちを目指す中で、都市計画や環境、福祉等の各方面から、公共交通の充実が求められている。
・中心市街地活性化に関しては、近年、各種の取組が積極的に展開、計画されている。

＜上位、関連計画＞

［第５次和歌山市長期総合計画（基本構想･基本計画）］

・安心して住み続けられる魅力あるまちづくりを目指す。
・コンパクトシティ実現のための施策として「公共交通体系の充実」を位置付け。

［和歌山市都市計画マスタープラン］

・中心市街地や周辺拠点が交通ネットワークで結ばれることで相互に補完しあえる「多極型のコンパクトなまちづくり」を進める。

［和歌山市立地適正化計画］

・都市計画マスタープランを踏まえ、都市機能誘導区域、居住誘導区域を設定。
・公共交通ネットワークの形成を進める。

［第３次和歌山市環境基本計画］

・豊かな自然と共に生きる環境にやさしいまちを目指す。
・まちづくり分野での取組として、公共交通の充実による自動車利用の抑制を実施。

［第３次和歌山市地域福祉計画］

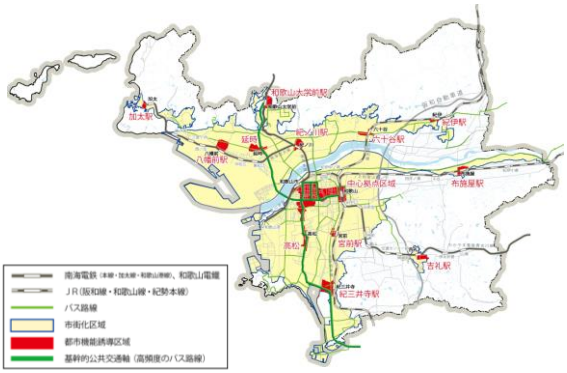
・お互いを尊重し、支えあう“元気な福祉のまち”を“参加と協働”で創出することを目指す。
・公共交通の充実による移動の支援を実施。

▼将来都市像

きらり 輝く 元気和歌山市

1 安定した雇用を生み出す産業が元気なまち
2 住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
3 子供たちがいきいきと育つまち
4 誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち

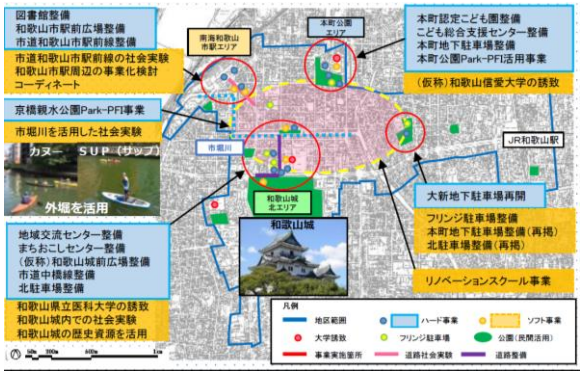
▼都市機能誘導区域図



＜中心市街地活性化に向けた取組＞

・これまで、リノベーションスクール事業や和歌山市駅前線での社会実験等を実施。
・今後も、南海和歌山市駅前広場や和歌山城前広場、フリンジパーキングの整備等を展開。
・2021 年までに３大学が中心部に新設。

▼都市再生モデル地区の取組



（３）公共交通に求められる機能

以上を踏まえると、和歌山市において公共交通には、以下のような機能が求められる。

●市民の日常生活を支える

⇒効率的ネットワークにより、郊外部を含めた便利な移動、安心な生活を持続的に支える。

●中心市街地活性化への寄与

⇒都市再生の取組等と連携させ、中心部の回遊性や魅力を向上させる。

●地域拠点づくりへの寄与

⇒拠点を中心としたネットワークの接続、連携を強化し、各地域での人の流れや交流をつくる。

●住みよいまちづくり、健康な暮らしへの寄与

⇒環境にやさしい暮らしが可能となる移動手段の提供。

⇒公共交通を中心に、歩く生活を促す。

●観光活性化への寄与

⇒観光資源のネットワーク化。

⇒交通自体もコンテンツとした、魅力の向上。

4-1-2 求められる機能に対する公共交通の現状

次に公共交通に求められる機能に対する現状を以下に示す。

車社会の進展や少子高齢化等の影響を受け、民間事業者の取組として進めてきた公共交通の維持が難しくなり、以下のような様々な問題が発生しているものと考えられる。また、このことがさらなる利用の減少を招くといった形で、負のスパイラルにもつながっていると考えられる。

表 4-1 公共交通に求められる機能に対する現状

求められる機能	公共交通の現状
市民の日常生活を支える	**○事業者の内部努力により公共交通が広いエリアを運行しているが、利用減少に伴い機能が低下している。** ⇒鉄道では、利用者の減少による廃線危機が発生。 ⇒バスの運行でも、利用者が減少する中で、減便や縮小化をしていかざるを得ず、バス路線の運行水準も低下し、ネットワークとしての機能が低下。 ⇒現行のサービス水準の低下により、既存の公共交通利用者の利用離れにつながるとともに、非利用者には、よりわかりづらく、親しみづらいものになっている。 ⇒行政が地域バスやデマンド交通の導入支援を行っているが、路線が廃止となった区間や周辺地域では公共交通不便地域が拡大し、生活不安にもつながるなどの悪循環へ。
中心市街地活性化への寄与	**○中心市街地の魅力が低下して店舗の閉店が相次いでいるが、有効な土地利用が出来ずに駐車場が増加し、自動車でのアクセス性が向上している。** ⇒バスでの移動は１日約1.9万人のうち、中心部間が1.2万人あるが、郊外から中心部への移動は、中心市街地の駐車場の増加もあり、車でのアクセスが多い。 ⇒中心市街地（ぶらくり丁）の通行量は、1979年に67,884人/10時間だったものが2015年には3,767人/10時間まで著しく減少している。
地域拠点づくりへの寄与	**○異なる交通モード間、路線間の連携や結節点の機能が十分でない。** ⇒JR、南海電鉄、和歌山電鐵が運行し、中心部にJR和歌山駅と南海和歌山市駅の２つのターミナルを形成。 ⇒バスは、地域拠点が十分に整備されていないため、JR 和歌山駅と南海和歌山市駅の２つのターミナルへ乗り入れる路線を中心に運行。 ⇒地域拠点に結節する地域バスやデマンド交通への支援も行っているが、一部地域に留まっている。
住みよいまちづくり、健康な暮らしへの寄与	**○少子高齢化やモータリゼーションの進行で、公共交通機関の利用者は減少し、車への依存が強くなっている。** ⇒1980年から2010年にかけ自動車の分担率が倍増し、公共交通や徒歩は大きく減少。 ⇒自動車保有台数は依然として増加しており、慢性的な渋滞が発生。 ⇒高齢者の関わる交通事故の割合も年々増加。
観光活性化への寄与	**○観光地を回遊する公共交通ネットワークが十分でない。** ⇒鉄道駅及びバス停から観光地までアクセスしづらい。 ⇒ターミナル駅や観光地等での公共交通の案内や情報提供が十分でない。

4-2 和歌山市における公共交通の課題

前項で整理した現状を踏まえ、公共交通に求められる機能を確保していくには、民間路線の支援、官民連携によるネットワーク形成、地域資源や人材と連携した地域交通の確保、育成に対応していくことに加えて、中心市街地活性化の取組を活かした需要取り込み等を図っていくことで、公共交通の持続性向上や正のスパイラル創出につなげていくことが求められる。

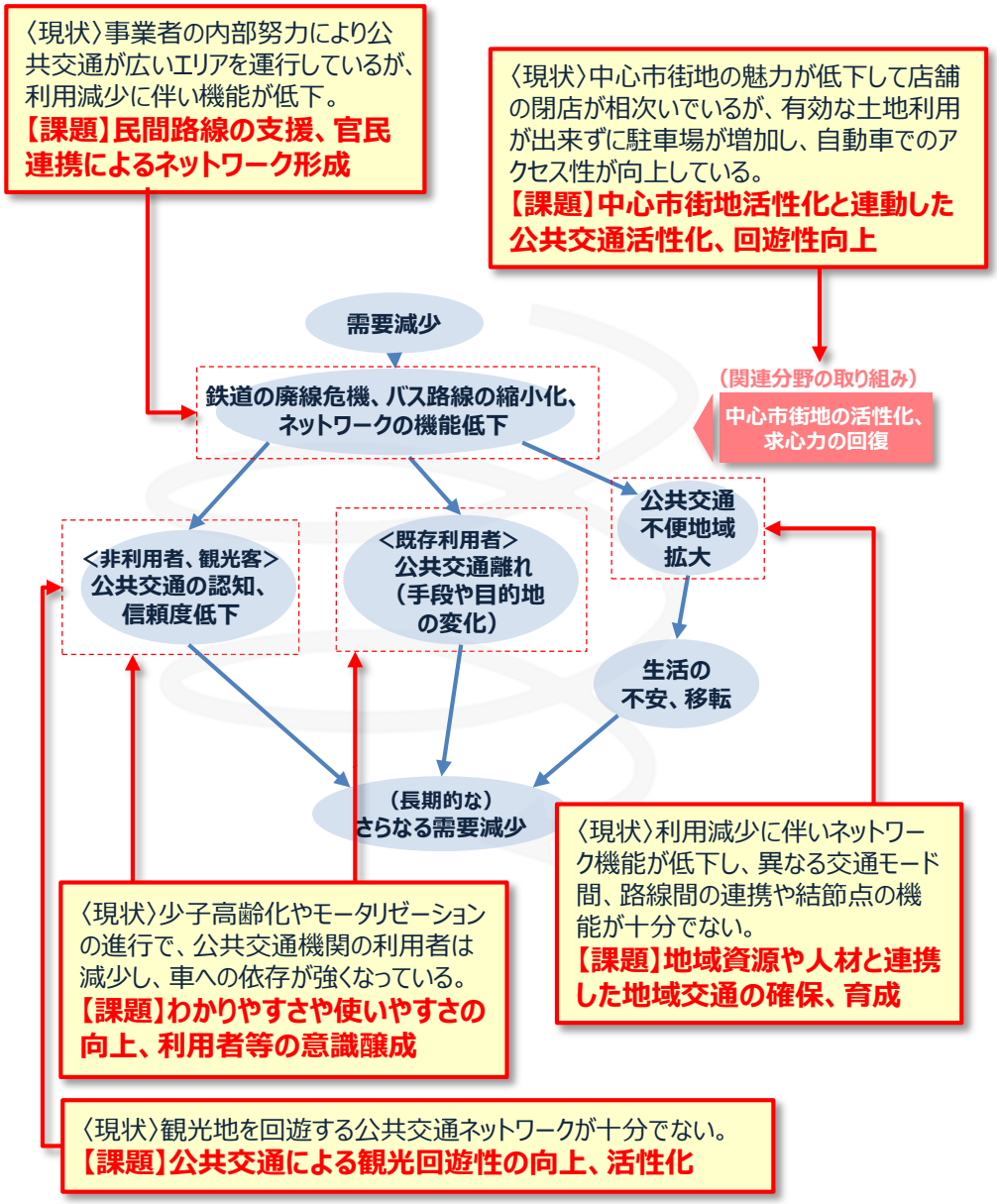


図 4-1 和歌山市の公共交通の課題

4-3 基本的な対応の考え方、戦略

4-3-1 基本理念

以上の課題を解決するために、すべての人にとって使いやすく持続的な公共交通を創出し、魅力的で住み続けられるまちづくりに貢献していくことを基本理念として取り組むものとする。

【基本理念】
すべての人にとって安心、安全に利用できる
持続可能な公共交通ネットワークの構築

4-3-2 取組の方針

公共交通網形成に向けて、各課題に対応する施策を展開することが求められるが、関連施策の実施状況や課題の重要性等を踏まえて展開していく必要がある。

まず基幹ネットワークの形成、分かりやすさの向上や、中心市街地活性化の関連施策を活かした利用環境の整備や利用促進を実施する。これを踏まえ、基幹へつながる交通確保や拠点づくり、観光回遊性向上等を進めていくものとする。

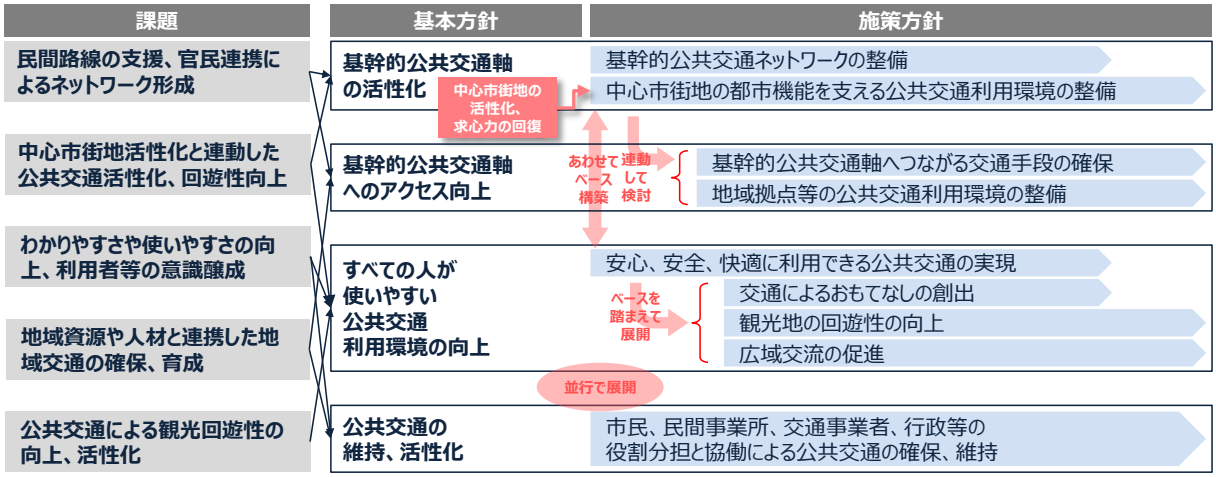


図 4-2 取組の方針

4-3-3 公共交通網の将来イメージ

前項の課題や取組方針を踏まえ、民間事業者や行政が連携して路線の仕分け、機能分担を図り、効率的で分かりやすいネットワークを形成していくものとする。

［基本的な考え方］

・既存のネットワークをベースとして、基幹となる公共交通軸を構築、活性化する。
・基幹となる公共交通軸を活かして市域全体のネットワークを構築する。
・市域のネットワーク構築と併せ、公共交通をすべての人が利用しやすいものとする。
・ネットワーク構築や、使いやすさの向上と併せて、市民や地域との連携を深め公共交通を維持、活性化する。

⇒公共交通網の将来イメージとしては、多極連携型のまちづくりと連携し、中心拠点と地域拠点を結ぶ公共交通の基幹軸の形成や拠点における交通結節機能の向上、地域の特性に応じた移動手段の確保等、便利で持続可能な公共交通ネットワークを構築していく。

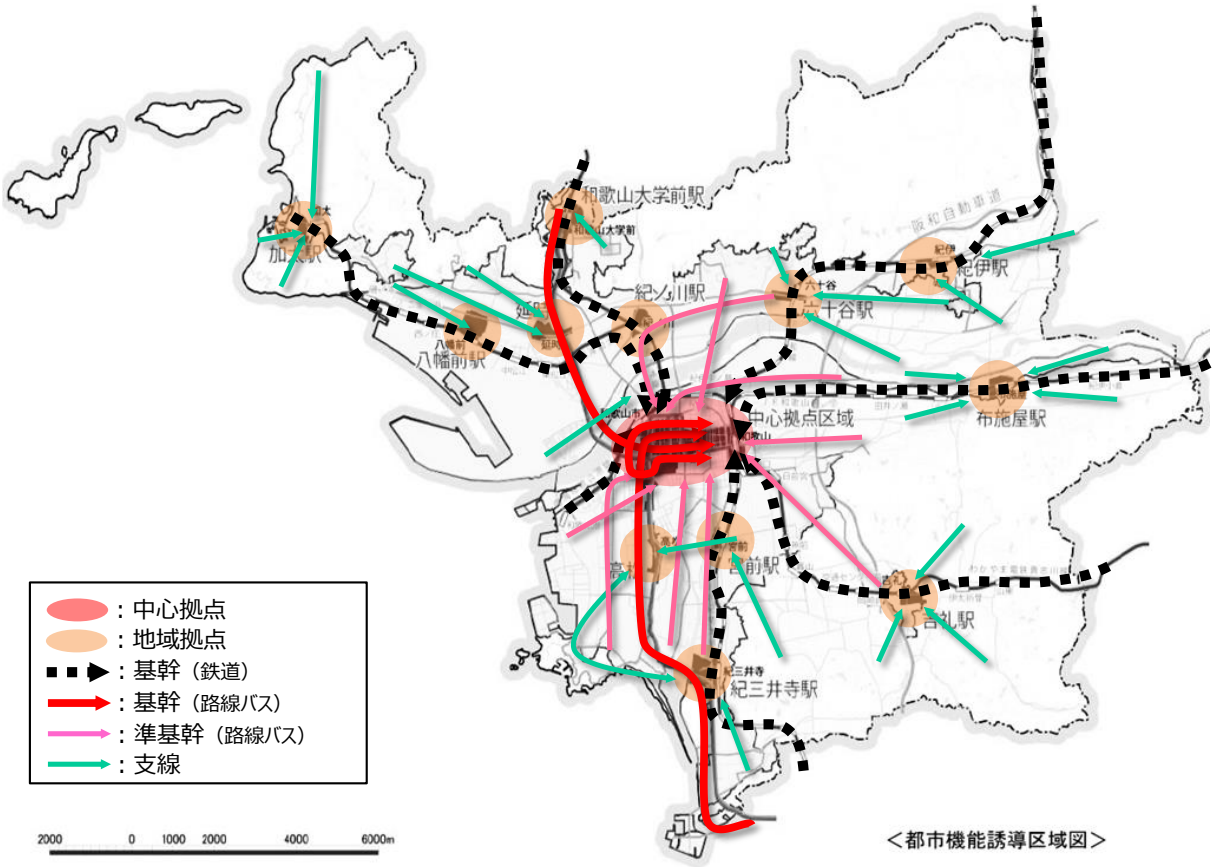


図 4-3 将来的な公共交通網のイメージ